



阿波西人権新聞

31号 令和6年7月19日発行
阿波西人権委員会および
社会問題研究部

第1学年 校内体験学習 今までの世界から広がる世界への冒険

4月25日(木)、26日(金)の2日間、第1学年の校内体験学習が体育館1階多目的ホールとセミナーハウスで行われました。今年も、大阪からマザーアース・エデュケーションの指導員さんに講師として来校いただきました。体験学習のオープニングでは、代表の松木正さんから「ものの見方を変えることで過去も未来も変わる」という講義や、クラスに分かれての様々な活動(レゴの高積み、サークルインサークル、エレクトリックフェンスなど)をとおして、生徒たちは自分の心の中にある今までの感情と向き合いながらクラスの仲間と協力して課題を乗り越えていく体験をしました。その体験によって、仲間のよいところに気づき、仲間と協力して1つのことを成し遂げることの大切さ等を学ぶことができました。来年1月には、再度マザーアース・エデュケーションの指導員さんに来校いただき、体験学習の振り返りの授業が行われる予定となっています。(人権教育課)



《生徒の感想より》

私はエレクトリックフェンスが一番刺激的で心に残りました。最後の一人が脱出に成功したときは、鳥肌が立つぐらいドキドキしました。この2日間、チームの人と協力してみて、言葉の投げ方は大切だと思いました。実際にボールやタワシを使ってキャッチボールをして、相手の事も考えながら話すことが重要だということに気づくことができました。

自分が変わることができたことがあります。それは、自分から前に進んで積極的に話をする事ができたことです。私はあまり積極的に意見を出したり動いたりすることが苦手だったのですが、校内体験学習をすることにより、無意識に体や口が動き、積極的に行動することができました。これからの学校生活に生かしていけるようがんばりたいです。

私は、校内体験学習をとおして自分の気持ちと向き合うことができました。エレクトリックフェンスをしていたとき、みんなにアドバイスをしようと思いましたが、「自分の発言が間違っていたらどうしよう」と不安になり発言することができませんでした。自分の弱さに気づきました。でも、どのゲームも班の子が私がやりやすくなるように提案してくれてとてもうれしかったです。私も自分の意見を言うことができよかったです。

体験学習の中でたくさん失敗もしました。しかし、班のメンバーや周りの友達は誰かを責めるということはありませんでした。助け合いながら活動していく中で、何度も失敗しながら成功し、成功したときの喜びを分かち合う、いい体験ができました。「失敗しても大丈夫」「友達が助けてくれる」という **belief** が今、私の心の中にあります。

この体験をとおして、クラスの仲間と絆を深められたと思います。班の人やクラスの人と協力しなければ攻略できない活動をたくさんしたことで、自分も周りの仲間も成長したと感じています。9か月後には、また自分の書いた手紙と、マザーアースの指導員さんたちと再会します。そのときには、今の自分より成長した自分でありたいと思っています。「仲間」も「自分」も大切にできる人でありたいです。

第3学年 人権学習ホームルーム活動 研究授業

- 日時 6月19日(水) 6限目
- クラス 31HR
- 主題 「公正な採用選考について考える」
- 指導者 松永 彩加 教諭

「社用紙」と「全国高等学校統一用紙」を比較し、以前の「社用紙」にはあって現在の「統一用紙」にはない項目についてグループで話し合い、本人の能力や適性に関係のない項目は「統一用紙」では削除されていることを確認しました。徳島県では「就職差別につながる」とされる14項目を設定し、就職の採用選考において、家族の職業や収入など本人の能力や適性に関係のない質問や、身元調査をしないよう働きかける取組が行われてきたことを学習し、就職差別をなくすために県全体で取り組んでいることを学びました。また、就職面接における2つの場面のロールプレイを見て、「14項目」に該当する不適切な質問について考え、不適切な質問を受けたときにどのように対応すべきかも学びました。生徒たちは、就職面接において差別につながる不適切な質問を見抜き、適切に対応することが差別解消につながる行動であることに理解を深めました。今回の研究授業では、連携中学校からも先生方が参観されました。



《生徒の感想より》

- 就職試験は誰もが一度は通る道だと思うので、「就職差別につながる」とされる14項目をしっかりと理解して、面接のときに聞かれてもあせらないようにしたいと思いました。
- 自分の親のことや生まれた場所など、本人の適性や能力に関係ないことを聞かずに、人柄などを見てほしいと思った。ロールプレイであったような質問をされたときには、適切な答え方をしようと思います。
- 今は少なくなっている就職差別だと思うけれど、学んでおけばこれは差別につながる質問だと理解できやすいので、学習できてよかったです。

第2学年 人権学習ホームルーム活動 「障がい者の人権(共生社会について)」

6月26日(水)、人権学習ホームルーム活動を3クラス合同で行い、「障がい者の人権」をテーマに共生社会について考えました。班に分かれて、白杖とアイマスクの体験を行い、視覚障がい者や介助者への理解を深め、体験をとおしてわかったことやすべての人が生活しやすい社会にするために自分たちにできること等を発表しました。共生社会を実現するためには、日頃から一人ひとりが他者の立場に立って考え行動することが大切であることを学びました。

《生徒の意見より》 ◎介助される側は不安だから、介助する側は注意をして周りを見なければいけないと思った。 ◎点字ブロックの上を歩かないようにしたり、物があればどけたり、困っているようであれば道と一緒に歩いたりすることを意識したいと思った。 ◎介助される側は、見えなくて怖く感じたり、不安だったりすると思うので、声かけやその人に合わせたやり方で介助することが大切だと思った。 ◎声を出したり、隣にいるといった行動を心がけたいと思う。

◇「中・高生等による人権交流事業」西部ブロック生徒部会

- 第1回 7月7日(日) 吉野川高校
- 第2回 8月 未定
- 第3回 9月22日(日) つるぎ高校
- 第4回 11月10日(日) 脇町高校
- 第5回 12月21日(土) 教育会館(午前中)
- 第6回 1月19日(日) 吉野川高校

◎令和6年度は、上記の日程で交流会が行われます。人権問題について話し合いながら、県西部の中・高生と交流します。興味のある人はぜひ、参加してみませんか!

(社会問題研究部)

◇人権に関する夏休みの宿題

- ☆「心に虹をかけたまほうの言葉～あなたの言葉で心が晴れたよ～」(全員) …8/1(木)しめ切り
- ☆ 2025年度版「じんけん」表紙イラスト
(希望者) …9/2(月)しめ切り
- ☆「中・高生等による人権交流集会」キャッチフレーズ
(希望者) …9/2(月)しめ切り



詳細は学期末に配布した別紙プリントを参照してください。